

和名抄に、諸國ともに此地名あり、中世吉利庄と云も餘の義なり。
西山 龍王村の古名なり、本村西は釜無川の涯高くして、釜無川押漲しを、機山公○武田○の時、大役を興して水を治め西山の郷民を此に移さる、永祿中の文書に、於龍王川除作家令居住者云々とある是なり、慈照寺に藏むる慶長以前の文書には、皆西山郷とあり、今も西山禪林と稱べり、宮地又宮路とも作けり、中下條村松尾明神の社頭に隣る一叢戸を、今も松尾宮地と呼ぶ、本村里長の藏てる元龜三年の印書に、上條堰破損○中牛匂郷、中下條郷、下方郷、大下條郷、天狗澤郷、宮地郷、再興可致也云々、上に謂へる如く、天文永祿以來の文書、妄うに村を斥て郷とせしこと、一時の風なりとみゆ、

大草 異本曾我物語に、大草郷蘆倉村奈良田村などは、工藤庄司が知行所なりとあり、御勅使河の入に數村あり、白根諸岳の間に傍ふ、此山の西北は信州伊奈郡大草郷なれば、爰にも大草と稱るならん。

大井 園 中世大井庄とも云へり、最勝寺鐘の銘に、甲斐國大井之庄最勝寺洪鐘云々、弘安六年未八月日とあり、この鐘今は身北に在り、延山に在り、 相澤、即ち八田御牧の界なり相澤とは間澤の義なり、今鮎澤に作り、 南は河内領に接き、東は瀧澤を限り、みな此郷の内なり、

稻積、又庄名にも里名にも見えたる、巨摩郡中郡、上條、中條、下條、西條、北山筋の石田篠原に係り、山梨郡の小瀬小曲に及ぶ、東鑑に稻積、庄小瀬村あり、中略

鎌田 楠米明王寺の神主左京が元龜二年の頃に、稻積十二郷鎌田八郷と見えたる、又宮原村鎌田八幡宮、享徳四年の棟札に、鎌田八郷とあり、大永天文中の棟札を校するに、宮原、高室、上中島今、島村阿荒又阿原とも作けり、今ヲシコシと作けり、今押越村、立今の中橋、西荒居、西荒居、今西新古市場、以上八ヶ村なり、慶長の棟札に、大津、堀内、極樂寺、圓滿寺、關口、井口の六村を加へたり、さて寛文の棟札